

岩手県におけるネギハモグリバエの発生生態

ネギハモグリバエの発育零点・有効積算温度を明らかにした。予測される発生消長は、野外の消長とよく一致した。このことから、ネギハモグリバエの発生予測ができるようになり、岩手県では3～4回発生することがわかった。



図1 ネギハモグリバエ（成虫）

ネギハモグリバエは成虫の体長約2mmの小さなハエで、ネギ、タマネギ、ニラ、ラッキョウ等を加害する。岩手県央以南では重要なネギの害虫となっている。

表1 ネギハモグリバエの発育零点・有効積算温度

生育ステージ	発育零点	有効積算温度
卵	8.9	48.9 日度
幼虫	10.7	88.9 日度
蛹	11.6	232.2 日度
卵～羽化	11.5	345.5 日度

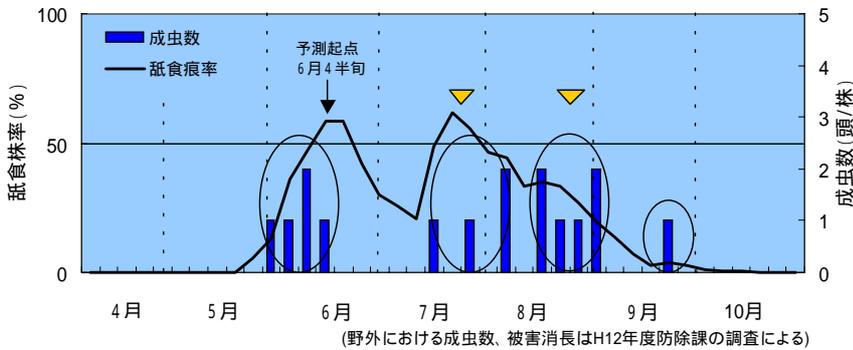


図2 軽米町における発生消長と有効積算温度による発生時期の予測

は、越冬世代羽化盛期（舐食痕葉率の発生盛期：6月4半旬）を起点として予測した次世代の羽化時期を示す。

本種の年発生回数は、概ね県北部・沿岸部で3回、県中南部での発生回数は3～4回である（図3）。

予測に使用した気温データはアメダスおよびメッシュ気象情報システムによる

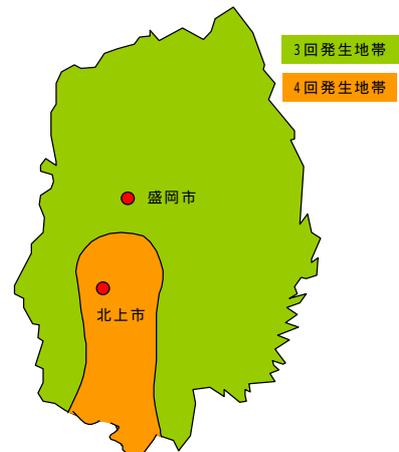


図3 地域別年間発生回数